市民自ら政策を持とう

第 32 回意見発表・意見交換会

日時　2016 年 9 月 24 日(土)　13:30-16:00
会場　　市民政党「草の根」事務所
参加者8 名

河井　今回は､｢演説｣という言い方はしないことにして､まず意見発表をしていただいて、それについてみんなで意見交換することにします。進め方はこれまでと同じですが、意見発表は「岩国爆音訴訟の会」の事務局長をしておられる藤川俊雄さんにお願いすることにしました。資料がいろいろありますのでちょっと説明してください。

岩国爆音訴訟への道のり

藤川 俊雄（岩国爆音訴訟の会 事務局長）

1. はじめに
2. 基地の始まりから今日まで
3. 基地と周辺企業の関わり(上空制限)
4. 爆音訴訟の会結成へ
5. 爆音訴訟提訴とその後
6. あとがき

藤川　藤川です。お手元の資料に、「岩国爆音訴訟への道のり」（2011 年 1 月 24 日）というのがあります。その次が「私と米軍岩国基地３訴訟」（2013 年 8 月 19 日)、次は縦の年表で「愛宕山地域開発（滑走路沖合移設）をめぐる主な年表」というのがあります。次の横長の年表は「米軍岩国基地と愛宕山住宅開発の動向年表」（09 年 10 月 30 日)、最後に「米軍岩国基地と周辺企業の動向年表」（09 年 8 月 30 日)。

私が今から話そうとするのはまず「米軍岩国基地と周辺企業の動向年表」です。それから「岩国爆音訴訟への道のり」という、たて長の表紙がある。それでお話をします。あとは帰ってゆっくり目を通してください。

先ずおことわりしますけれど、私は確かに爆音訴訟の事務局をやっているわけですが、今から話すことは、爆音訴訟に関わることはありますけれど。考え方が同じとは限りません。それだけは十分留意していただきたい。爆音訴訟の目的、精神と、私が今から話すことは、同じとは限りません。今日は個人的な話をするわけですから。

もう１つ。これまでの方は皆さん話が上手ですけれど、私はあまり話は得意ではありませんので、あまり期待しないでください。また、脱線すると思います。脱線したときは、

皆さんにブレーキをかけていただけたらと思います。
　それでは「岩国爆音訴訟の道のり」を読みながら話をしていきたいと思います。

1　はじめに

　ここで自己紹介を書いていますが、私は団塊の世代、1947 年生まれです。今 69 です。「私達の世代は」と書いてありますが、オヤジもそうですが、戦争に行って、終戦後帰ってきました。それで私も生まれた。この世代ですから、当然のことながら、たくさんの子供がいます。それも私のグループです。と同時に、この世代は今まで企業で日本の経済に寄与したと自分では自負しております。そういうことを書いております。
　といいながら、一番働いた団塊の世代は最も人口が多い。自分で貯めたお金で税金、年金、等々のことをやったわけですから、我々現役を去ったものへの還元があってもいいのじゃないかなと、書いたわけですけれど、このへんはサラッといきます。
　私達団塊の世代は、第二次世界大戦終了後、戦地で戦い破れた兵士・勝利した兵士達が帰還して、多くの生命が生まれました。それは、日本における経済大国になった原動力として、大いに日本の国に寄与してきました。他国も同じ現象が起こったはずです。多くの生命は、歪つな人口構成となり、現役を去った今日、年金破綻等々の話が沸き起こっていることに納得出来ない私です。
　何故ならば、団塊の世代・最も人口構成の多い者が納めた年金・税金・労働等々であり、私にこの世で生命を与えてくれた両親には感謝するものの、好んで団塊の世代に生まれたわけではありません。只々、自分達の責任を果たし、努めて生活をしてきた私達です。この世の無情さを含めて、自己紹介とします。
　二番目に「基地の始まりから今日まで」と書いてあります。それが縦の年表です。さきほど言った「米軍岩国基地と周辺企業の動向年表」もそれと同じですから、これを見ながらお話ししたいと思います。

2. 基地の始まりから今日まで

　年表は 2009 年 8 月 30 日に作ったものです。私が「岩国爆音訴訟への道のり」を作ったのは、2011 年 1 月 24 日ですから、まだ東北大震災がおきてなかったのですよね。あれが 3 月 11 日だったと思います。大震災が起きていれば、もっと厳しい文章になったかもわかりませんけれど、起きてないときの文章とご理解ください。
　1938 年 4 月に、旧海軍が、あの周りの方の田畑を接収して、海軍飛行場を作る工事に着手するわけです。
　1940 年 7 月にこれが旧海軍岩国海軍航空基地となる。いまの滑走路は北から南ですが、当時は東から西なんですね。山から海へということで、滑走路は今とはちがいます。
　　注記　当初の滑走路は現在と 90 度異なり、東西方向、山から海へというコース。
　1941 年 12 月に太平洋戦争が勃発して、1945 年 8 月に第二次世界大戦が、日本敗戦で終戦を迎えるわけです。
　1945 年 9 月に、米海兵隊が進駐して基地を接収する。
　1946 年、ここから基地が拡張されるわけですが、基地拡張工事を実施して、滑走路を現在と同じ南北、要するに海から海にした。今は 1 キロ沖へでていますけれど、1 キロ内側

の海から海、つまり海面と平行線の滑走路ができたわけです。これはなぜか。

朝鮮戦争がはじまるわけですけれど、当時ジェット機になったわけですね。プロペラでなくジェット機だから、長い滑走路がいるというわけで、北から南への滑走路に変わっちゃったということは、とうぜんあの方（平岡秀夫さん）の土地も収容されたということです。

1950 年 6 月に朝鮮戦争が勃発。ということは、すでに 46 年から、そういうことをアメリカは考えていた。米ソの関係、中国との関係があったわけですから、そういう基地の拡張が 46 年頃からはじまったということがいえるわけです。

1951 年 9 月、日米安全保障条約、これは吉田茂ですね。

1952 年 4 月に（岩国基地は）在日米軍基地となり、

1953 年 7 月に朝鮮戦争が終わります。

1954 年 7 月に警察予備隊、俗にいう自衛隊が発足するわけです。12 月米海軍基地となり、

1957 年 3 月、海上自衛隊と共同使用になる。

1958 年 1 月に米海兵隊岩国航空施設となります。

1960 年 6 月、ここで岸信介、（安部晋三首相の）おじいちゃんですね。「日米新安全保障条約」の締結があります。

1965 年 2 月、米軍機が北ベトナムの爆撃を開始する。この頃（岩国基地は）うるさかったですね。

1975 年 4 月、ベトナム戦争が終わるわけですが、私が岩国工業（高等学校）を卒業したのが 1966 年 3 月。あくる年、一年いたユニオン石油を退社して、帝人製機に入ったんです。1967 年の 3 月ですから、ちょうど北ベトナム爆撃を開始した時期ですから、私の会社の上を、爆撃機があがる（離陸飛行する）わけです。そういうことを書いた文章もありますけれど、それは 3 章の文書を書いておりますけれど、それはうるさかったですね。そしてずっと時が経って、

1996 年 11 月に沖合埋立承認処分(愛宕山開発土砂利用)というのがきまり、

2000 年に沖合埋立が始まり、2 月ベルコンが試運転開始となります。3 月に土砂搬出記念式。

2005 年 10 月、例の守屋だったかな、あの人が「岩国がいいな」という事で、米軍再編で、厚木から岩国へ艦載機移駐計画が発表された。その頃は当然、愛宕山も削っているわけですから、

2005 年、台風 14 号で愛宕山近隣、牛野谷地区の多くの住宅で床上・床下浸水がありました。愛宕山はハゲになったわけですから、保水力がなくなって、そういうことがあったのは事実です。次のページにいきます。

2006 年 5 月、在日米軍再編最終報告というので、艦載機移駐の盛り込みが閣議決定された。

2006 年　住民投票だったのですね。合併は何月でしたかね。

井原勝介　3 月です。

藤川　その頃いろんなことがありましたけれど、2006 年というのはいろんなことが重なった時期だったと自分では思っています。

2007 年 3 月、埋立土砂搬出が完了しました。

2007 年 5 月、ここで再編交付金など米軍再編特別措置法が成立。もう 10 年が来るわけです。岩国市も 2017 年、来年で再編交付金が終わっちゃうので、こんどは山口県にねだっているようですが、そういうのが来年くる。そうすると次から、お金を求めるのかな。ということは、我々市民の負担が増えるということだ、というふうに私は理解している。

2007 年 5 月　米軍再編特別措置法成立。

そして 2007 年 6 月には、愛宕山開発で、岩国市・山口県が事業廃止合意をし、

2007 年 11 月には県が国へ買取要請をし、

2008 年からここで住民説明会、公聴会があるわけですが、私も公聴会で自分なりに意見陳述したんですけれども、20 名ぐらい、19 名ぐらいが全部反対だったんだが、残念ながら廃止の方向に行き、2008 年の 11 月には、岩国市、山口県都市計画審議会があり、変更・廃止が確定したわけです。

2009 年 2 月　官房長官発表「2012 民空再開」。

政治のほうは 2009 年 8 月、第 45 回衆議院議員選挙で民主党政権交代が実現しましたけれども、なかなかそういう意味では、われわれの思うように米軍再編見直しというところまでいかなかったというのが、私が記憶しているところです。

日程を書いていますけれど、別表の年表をみてほしいのですが、「米軍岩国基地と周辺企業の動向年表」この年表は、一番左側が「年」ですね。それから「国内外の動向」、そのつぎ「基地の変化」、次が「TJ」、帝人のことです。「帝人岩国の動向」。それから「TS 岩国」、「帝人製機岩国の動向」、私はここの「帝人製機岩国」に入ったわけですから、あえて書いておきます。

「帝人」と「帝人製機」は関連会社です。おのずから帝人の動向が関連会社の帝人製機にも大きくかかわってくるわけです。

年表の方は 1940 年まで見ました。1941 年には太平洋戦争、これも言ったですね。45 年に終戦になった。と同時に基地の変化としては、ここに書いてあるように、9 月に終戦後、米海兵隊が基地を接収するということがあった。

帝人製機の動きを少し見ますと、私が入社した会社ですけれども、先程申し上げましたように、帝人製機には 1967 年に入社したのですが。もともと帝人の設備会社ではあるんですが、一番上に書いておりますように、人絹設備製作並びに旧海軍管理工場に指定され、航空機体、発動機部品等の生産をしておりました。ですから 1944 年には 8 月 18 日帝人航空機というのになりまして、12 月 18 日には軍事会社に指定されるのです。これが帝人製機の生い立ちです。今日は帝人製機の OB がおりませんので楽です。あえて名前は言いませんけれど、このグループにいらっしゃいますから。楽ですね、私は。

終戦後、1945 年 9 月 15 日に「帝人製機」という名前に変わるのです。そして軍需品生産の許可を受け、話に聞くと、1945 年帝人製機に名前が変わっても、アメリカ人が長靴、長い靴を履いて工場の中に入ってきたというのを先輩たちから聞いたことがあります。

1946 年 4 月 1８日に帝人製機労働組合ができます。労働組合がその頃沢山できたんですね。なぜかというと、アメリカが労働組合を作らせたのです。レッドパージ、「共産党排除」と言います。共産党排除するために、労働者は別のグループ、労働組合を作らせたというのが実態のようです。ですから労働組合というのは、国の政策によってできたわけです。

レッドパージのためにですね。

今現在労働組合は、大きなグループは連合と全労連がありますけれど、それは、連合系は、ご存知のように総評系と同盟系、全労連系は少し違う、というふうになっております。私は連合に属しておりました。そして、1950 年 6 月 23 日に朝鮮戦争が勃発。と同時に岩国基地の変化としては先程言ったように、基地拡張工事を実施して、滑走路を現在と同じ南北（方向）にしたわけです。朝鮮戦争に関わる戦闘機がジェット機に変わったからです。

その時に平岡さんの家も接収されたわけですね。だから平岡氏は、楠に（住所を）変えたのです。今納屋だけ残っていますけれど、基地の横にね。

大きな変化、企業に対する大きな変化、1954 年 7 月 1 日に警察予備軍という自衛隊ができ、（岩国基地は）米海軍基地となり、企業では、米海軍の戦闘機の離着陸を妨げないよう、滑走路延長上の真下にあった工場群の煙突を切るように求められた。3 本切られました。飛行機の離発着の邪魔になる、ということですね。そのあと、帝人はおのずから岩国では生産ができなくなるわけです。1958 年、ここで帝人は 6 月 18 日に帝人松山テトロン工場（を作る）。要するに松山に帝人が生産拠点を移したわけです。

帝人製機はどうかと言いますと、1955 年 3 月に航空機部品の製作を開始します。これは航空自衛隊のエンジンとかですね。「今すぐ工場で作り始めろ」というのですが、1960 年、岸（信介）ですね。安保条約締結と同時に、帝人製機では 12 月 18 日に航空・油圧機器新工場を岐阜県にある垂井に岩国工場から移管する。航空・油圧関連の会社ができました。そういう意味では、岩国から飛行機関係は逃げた、出されたということになります。その一つとして考えるのに、川崎重工が名古屋にありますから。それとの関連かなと思います。三菱もありますね。

1962 年、帝国人造絹糸が帝人という名前に変えました。帝人の方がやわらかいですね。と同時に 65 年には、4 先程言いましたように、国内外の動向では、ベトナム戦争、北ベトナム戦争が激しくなりますけれど、帝人が三原にナイロン工場を作りました。ということは、帝人は岩国工場の中ではスフだけになった。スフという生産工場があるのですけれど、昔はテトロン、ナイロン、スフがあったのが、スフ工場だけになった。1967 年に、帝人岩国工場レーヨン（、スフ）が全面停止になりました。帝人はほぼ空っぽになった。何故かというと、滑走路の延長上に高いものは建てられないという事で、帝人の岩国工場が生産停止、糸の生産はできなくなった。だから、松山に行く、三原に行く、ということになっちゃったわけですね。帝人岩国工場は空っぽになっちゃったというのがあって、基地（のおかげで）多くの工場の人口減少に繋がったわけですね。

1970 年、ここで私も入社しました。帝人製機に入社したわけですが、1967 年に入社して、1970 年には岐阜工場の建設が始まりました。71 年に岐阜工場に沢山の人間が、岩国工場から岐阜に転勤した。そういうことがあるわけなんです。88 年には給与計算が岐阜工場に行っちゃった。帝人製機の心臓部がどんどん岩国の中から抜けていった、ということがここに見えるわけです。

1989 年に移りますが、岩国工場、帝人製機岩国工場においては、3 月に化繊製造設備関連、これが生産の統合を含めたリストラで、多くの従業員が松山、垂井、岐阜工場へ行き、応じられない人は会社を去る。私も 1989 年に松山に行った者です。岩国工場はここで、ほぼ 100 人くらいになっちゃったですね。1500 人おったのですから、そういう意味では、先

に帝人が骨抜きになり、そして帝人製機が骨抜きになったという姿が見えてくると思います。

最後にちょっと記事で書いてるのですけれど、米軍岩国基地の上空制限によって、民間企業を押しのけ、経済発展の足かせとなり、結果として「基地あって、町栄えず」となったという流れではないかと思っております。その中において、私が爆音訴訟を起こさなければいけなくなる、という繋がりがある。「岩国爆音訴訟への移行」のページを見ていただけたらと思います。

基地と周辺企業のかかわりというので、先程煙突切ったと言いました。一つ切ったのは、1954 年ですね。朝鮮戦争が終わって明くる年ですね。この頃に、今度は米ソの冷戦時代にはいるのですが、岩国基地は市街地の中心部にあり、北側は工場地帯、西側は居住区に隣接しており、特に滑走路延長線上の北側約 1km から帝人・日本紙業・ユニオン石油工業・三井化学等の工場群が航空機の離発着の進入路となっている。要するに帝人製機があるわけですね。事実、工場周辺で、過去において軍用機の落下物による事故も多発している。『基地と岩国』(岩国市発行)に記載してあります。これはもうご存知だと思いますけれど。いつごろ何が起きたかということが明確に書いてある。私がおった帝人製機にも模擬爆弾等が落ちてきました。これは、記録しております。

3　基地と周辺企業の関わり(上空制限)

その様な状況の岩国基地は、米軍の管理下にあって、航空法に基づく公共用飛行場としての指定はされていないものの、米軍軍用機の大型化、ジェット機となり、基地に隣接する工場の煙突が航空障害物(上空制限)となってきたため、1954 年 12 月帝人岩国工場に対して、煙突の切断をするよう申入れがあった。帝人岩国工場の煙突は切断を余儀なくされた。このことにより、帝人岩国工場では化学繊維プラントの建設は出来なくなった。化学繊維の設備は結構高く、50 メートルぐらい高さが要りますからね。糸を作るプラントの建設ができなくなった。そういうことで帝人は、岩国に代わる施設として、四国松山にテトロン工場を 1958 年操業開始を行い、又、1963 年三原にナイロン工場の操業を開始した。

事実、1967 年帝人岩国工場ではレーヨン・スフ、これも化学繊維ですけれど、生産が全面停止となりました。たくさんの従業員が四国の松山、広島の三原へと転勤をしました。岩国工場周辺の、皆さんご存知だと思うけれど、「人絹町」という名前があるんですよね。人絹、スフ、レイヨンというのは化繊のものですから、人絹町と呼ばれて、にぎわいがあったんだけれど、過去のものになった。松山へ行き、三原へ行って、「人絹町」が寂れた。

私事で大変恐縮ですが、私(企業)と基地との関わりについて話しますが、1967 年に帝人関連会社（化学繊維設備メーカー）帝人製機岩国工場、化学繊維とさまざまつくっていましたが、私は帝人製機岩国に入社いたしました。当時の帝人岩国工場はもう精彩を欠いていました。三原、松山へ行ったわけですから。だけども、われわれ帝人製機岩国工場、帝人設備メーカーとして、帝人松山・三原の設備をつくるのが大変でした。だけども作ってしまえば、国内の生産は、国内の設備はもう満タンになるのですから、そうすると、帝人製機岩国工場主力製造部門のひとつである、飛行機、航空・油圧機器製造部門を 1961 年、新安保締結後ですが、岐阜県垂井（垂井工場）へ工場開設、また、1971 年には航空機器製造部門の単独増産として、増産設備として、新規工場（岐阜工場）を作ったわけです。

この頃同じく、帝人製機全社の給与計算を岩国から新規工場岐阜工場へもっていったということは、生命が抜けた。それと同時に、労働組合本部は、1946 年結成以来岩国工場にあったものが、それまでも新規工場岐阜工場にもっていったから、岩国では、まったくカラッポになっちゃったということが書いてあります。

当時、当然たくさんの仲間が、岩国を離れて岐阜県垂井地区へ転勤をしたのです。これが 1971 年ですが、私の仲間の一人が「あと 20 年すれば帝人製機岩国工場はなくなるから、今のうちに転勤（新規工場岐阜工場）して垂井地区に住居をかまえるのだ」ということを私に言ってくれました。なぜかな、と私は思ったんですが、仲間の言葉を頭の片隅に記憶しつつ、私は帝人の設備、松山・三原の設備が忙しかったものだから、いろいろと製造にかかわっておりました。

帝人製機も 1989 年まで様々な企業合理化があったと思います。合理化をしつつ企業成長しましたが、当時の工場も岩国（工作機械製造・化学繊維設備製造）、松山には帝人松山があるわけですから、化学繊維製造、垂井は油圧機器製造、岐阜は航空機器製造、要するに岩国、松山、垂井、岐阜の四事業所体制になりました。

「これが現実に起こったのです」と書いておりますけれど、化学繊維製造部門統合を含めたリストラ、要するに 1989 年のことなのですが、岩国工場に働く多くの仲間が、四国松山工場に転勤しました。私を含めてですね。平成元年です。増産計画の油圧機器製造は垂井に行き、航空機器製造は岐阜工場に転勤した。転勤に応じられない仲間は、自ら会社を去る、というような、企業によくある合理化リストラですけれど、そういうことを帝人製機も何度もしてきたわけです。私も、1989 年四国松山工場へ転勤し、2003 年までの約 17 年間、松山で生活をしました。単身で勤めることになったのです。

帝人製機岩国工場は 1989 年以降、主力製造部門にいたわけですから、どんどん衰退の一途をたどり、1995 年、71 年に私の友達が岐阜に行ったわけですから、約 20 年、24 年たってますけど、帝人製機関連会社・ティエスプレシジョン社・工作機械メーカーとして、50 人の会社になりました。ということは、もう会社ではない組織でスタートしました。私が岩国工場に入社した 1967 年には従業員 1500 名であったものが、25 年たてば 50 名程度の工場規模になったのであるから、1971 年に友達が言ったことはほんとうだったなと。これも滑走路延長上の工場として、帝人岩国、帝人製機岩国がたどった、米軍岩国基地に関わる被害でもあるわけです。だから、基地被害というのは、爆音だけではない。このような大きな変化では、当然家族のみなさんも被害をこうむったということでございます。

4　爆音訴訟の会結成へ

こうして爆音訴訟の会の結成にいたるわけですが、「基地の始まりから今日まで」に記載したように、戦前、1940 年の旧海軍岩国航空基地に始まり、戦後の駐留米軍による、古くは朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東戦争、2001 年の 9 月 11 日の米国の同時多発テロ、それ以降のイラク攻撃等々、爆音の途切れることはなく、岩国から攻撃に行ったというのが現実だと思います。それが爆音訴訟に向けて働きかけてもらった原動力になったと私は思っております。

爆音訴訟の方とは違うことといえば、企業において私が個人的に被害をこうむった、我々働く仲間がこうむった被害に対する、うらみつらみの部分も、爆音訴訟のなかに含まれて

いる。そのことも多くの人の心のなかにあることだと考えています。

「爆音訴訟の会」結成への行程ですが、

2007 年 10～12 月にかけて地域の方と、「爆音訴訟の取組み」について意見交換しました。

2008 年 2 月。ここではまずワンステップとして、爆音訴訟へのワンステップとして、行政訴訟、これは「海の裁判」が２月にはじまったわけです。

「埋立承認処分取消請求」　山口地裁へ提訴　山の裁判(爆音訴訟へのワンステップとして行った提訴です。

2008 年 3 月、第 4 次厚木訴訟団、弁護団を招き、勉強会、意見交換会をしました。

2008 年 5 月、弁護団の方と、85W値の住宅地で爆音体験と爆音測定をいたしました。

2008 年 8 月には、爆音訴訟について住民へ説明会を弁護士同席でしております。

2008 年 8 月には、今も続いておりますけれど、「全国基地爆音訴訟原告団交流集会」へ参加をしております。このときは岩国はまだ、爆音訴訟はありませんでしたから、岩国基地爆音訴訟準備会として 3 名行っております。この３名は藤川、田村順玄さん、大月さん。ですから、田村さんは今は共同代表。大月さんは事務局次長、藤川が事務局をあずかっている。という３名です。

帰ってきまして、2008 年 9 月に「岩国爆音訴訟準備会」の発足会を開催して、11 月に「岩国爆音訴訟の会」発足集会をやったわけです。そういう意味では、2008 年 11 月から本格的に岩国爆音訴訟の会というので発足しております。ここで、岩国爆音訴訟というのは、爆音訴訟という冠があって、支援の会と原告団の二つがあるわけです。支援の会のほうは田村さんが代表をしている。原告団の代表には津田さんが代表。ということは津田さんと田村さんが岩国爆音訴訟の共同代表になっております。

2009 年 1 月・爆音訴訟に参加する為の手続き説明会を開き、

2008 年 9 月から 2009 年 1 月まで原告、支援募集として地域説明会を開催し、

2009 年 3 月に「岩国爆音訴訟原告団結成総会」を開いて、提訴しておるわけでございます。

5 爆音訴訟提訴とその後

2009 年 3 月 23 日に岩国爆音訴訟提訴（山口地裁）、この時にはまだ原告は 476 名ですね。そして時を経まして、「俺は入りたかったんだ」という人がいらっしゃいまして、一番下に書いてありますように、同年 7 月 30 日までに追加提訴というので、178 名加えて、現在は次のページになりますけれど、280 世帯、654 名で追加提訴をし、30 回の口頭弁論をし、去年の 10 月 15 日に判決が出ておるわけです。というのが大きな流れですね。

476 名分の委任状を提出。そのあと、報告集会場(中央公民会)まで、サイレントデモ行進を実施し、全国の支援者を含めた報告集会を開催。

提訴内容は・・・民事裁判であるゆえ損害賠償は当然のものの、特記として・・・岩国飛行場において、横須賀基地を母港とする空母に配備されている艦載機、及び、普天間基地に配備されている空中給油機を、一切離発着させてはならない。・・・これは、厚木からの空母艦載機等が移転してこないよう求めるもの。

2009 年 5 月・岩国爆音訴訟「提訴」についての報告集会開催(3/23 未参加者)。

2009 年 6 月・私達が体験しているのは「騒音」ではなく、「爆音」だ！

爆音についての学習会開催・第 4 次厚木爆音訴訟団を迎えて。

2009 年 7 月・第 1 回口頭弁論、そのあと報告集会開催。

2009 年 7 月～9 月・追加原告募集期間。

2009 年 10 月 30 日・岩国爆運訴訟追加提訴・・・原告 178 名　14：00。

合計　280 世帯・654 名の原告で戦う。提訴後、追加提訴決起集会開催。

2010 年 3 月 20 日・第 2 回「岩国爆音訴訟の会」「岩国爆音訴訟原告団」総会開催。

6 あとがき

岩国では、米軍再編に関わる裁判として、4 つの裁判が提訴され、今、継続して戦っている裁判、「爆音」「埋立」「愛宕山」、これ全て関連があり、どれ 1 つを抜いても裁判進行はありえない。市民の安心・安全を守り抜く為にも、全ての裁判に勝利して、身の丈の市政で、安心・安全を最優先した生活を取り戻すまで頑張っていきたいと考えます。

以上が流れであり、かつ、私がなぜ爆音訴訟に噛んじゃったのかな、というところの心情がはいっているわけです。ちなみに、私は岩国工場におるときは、技術営業をやっておりまして、主に原子力の設備、それから、磁気のコーティング設備等の見積もり営業をしておりました。原発なんかは、島根原発、福井の美浜、高浜。そして東海村の再処理工場に行っております。一番ショックのことをあえて言いますと、東海村は再処理工場ですね、これは本チャンは六ケ所村、青森にありますけれど、東海村のプラントでは、使用済み燃料を溶かして、それを硫酸、硝酸でとかしながら、プルトニウムとウランを分ける。プルトニウムを遠心分離機でどんどん濃縮して、プルトニウムができるわけですけれど、そのプルトニウムを箱詰めしたりする。そこの工場に入るのは、私は入っていないけれど、設備のなかにはね、全面マスクで入るのです。全面はオールでしょう。外から空気をもらう。そこで仕事をしたグループの中の 1 人は、どういうものか、早く亡くなったものがいます。その人がそれでなくなったかどうかわかりませんけれど、猛毒ですからね。それは今になってみればそうかなと思うんです。そうかどうかわかりませんけれど。猛毒ですし。放射線そのものの遮蔽は、紙で遮蔽できる。それぐらいエネルギーはないのです。ただ猛毒です。それが日本では 40 トンか 6000 発ですか、あると言ってます。再処理をして東海村に再処理プラントを作って、今はフランスでどんどん使用済み燃料を再処理しておりますけれど。そのプルトニウムは、あれは原子爆弾になる。それでも今では、いらん仕事をしたなあと思っております。そういうところから原子力発電や原発放射能、とても怖い物質というのは、今思えばわかるということです。以上です。終わります。

補足情報

その後、口頭弁論は 8 回口頭弁論(2010 年 12 月 9 日)を終え、毎回口頭弁論終了後は、報告集会を開催。

* 口頭弁論確定日・・・第 9 回　2010 年 1 月 27 日
第 10 回 2010 年 3 月 10 日
第 11 回 2010 年 5 月 26 日

毎回、原告の思いを法廷にて意見陳述を出来るだけ行い、提訴の勝利に向けていく。

009 年 10 月・岩国市「街づくり用地」地元説明会開催(愛宕山開発跡地利用)

* 2010 年 9 月・国(防衛省)による愛宕山用地における施設配置(案)説明会開催

* 2010 年 11 月・岩国市が国(防衛省・外務省)に、愛宕山用地における運動施設等、及び岩国基地関連の政府要望を行う。
* 岩国基地周辺(山口・広島・愛媛各県)における航空機事故等の発生状況は、『基地と岩国』平成 21 年度版(発行者：岩国市役所)・・・53～57 ページに記載(Ｓ23～H21 90 件)
* 基地沖合移設(滑走路沖合移設)は、愛宕山開発と関連があるので、愛宕山関連も併せて記載します。

配布資料

1. 岩国爆音粗鬆への道のり　藤川俊雄　2011 年 1 月 24 日　6p.
2. 私と米軍岩国基地３訴訟　藤川俊雄　2013 年 8 月 19 日　2p.
3. 米軍岩国基地と周辺企業の動向年表　2009 年 8 月 30 日　2p.
4. 愛宕山地域開発（滑走路沖合移設）をめぐる主な年表　2p.
5. 米軍岩国基地と愛宕山住宅開発の動向年表　2009 年 10 月 30 日　3p.

参考文献・資料リスト

1. 岩国市『基地と岩国』平成 16 年度版、21 年度版
2. 帝人製機(株)　『帝人製機五十年のあゆみ』
3. 新聞：朝日新聞、読売新聞